

宇都宮市立瑞穂台小学校 第5学年児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○「家で、学校の宿題をしている。」「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」などの質問項目に肯定的回答をした児童の割合は、いずれも県の平均を上回っており、日々課題をこなしながら自主学習にしっかり取り組んでいる。

○「毎日、朝食を食べている。」「毎日、同じくらいの時こくにねている。」などの質問項目に肯定的回答をした児童の割合は、いずれも県の平均を上回っており、良好な生活習慣が身に付いている。

○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。」「しようらいののゆめや目標をもっている。」などの質問項目に肯定的回答をした児童の割合は、いずれも県の平均を上回っており、児童に対して肯定的な声掛けを心がけたり、児童の頑張りや活躍を見逃さずに褒めたりすることにより、児童の自己肯定感を高め、将来に希望をもたせる。

●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」「友達の前で自分の考え方や意見を発表することは得意である。」などの質問項目に肯定的回答をした児童の割合は、いずれも県の平均を下回っており、協働学習に対して苦手意識を持つ児童が多いので、話し合い学習の場を意図的に設定する。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームはのぞく)。」の質問に「2時間以上、3時間より少ない」と回答した児童の割合は、県平均を5ポイント上回る。ゲームに関する質問でも「1時間以上、2時間より少ない」と回答した児童の割合が高く、下校後の時間の使い方に課題があるので、家庭での過ごし方について指導する。

宇都宮市立瑞穂台小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に關わる調査結果
・書く活動と話合い活動を関連付けた指導の充実	書く活動では、必要な情報を整理し、友達との協働的な活動を取り入れながら自分の考えが伝わるよう書き方を指導する。また、全ての教科において書く活動と話合い活動を関連付け、相手意識や目的意識をもって取り組ませ、思考を深めさせる。さらに、対話によって課題が解決していく喜びを実感させ、苦手意識を取り除いていく。	各教科における記述問題では、正答率が同程度だった。書くことの領域では、5年生は県平均を上回るが、4年生は県平均を大きく下回る。自分の考えや理由を踏まえながら文章を書く問題や問題を解く時間配分に課題を感じる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から基本的な知識を基に、自分の考えを記述したり、資料のデータを読み取ったりする設問での正答率が低かった。	・書く活動と資料を読み取ったり比べたりする活動の充実	書く活動では、引き続き必要な情報を整理し、自分の考えを文章にする活動を充実する。また各教科においてグラフや表、実験結果などのデータの読み取り方を指導し、自分の言葉で文章に表せるようにしていく。